

MCS 税理士法人立川事務所通信

10月号 VOL. 194

MCS 税理士法人立川事務所

〒190-0023

立川市柴崎町 3-11-4 東京ロジテック千代田ビル 4 階

電話：042-595-7671 FAX：042-528-6949

<http://www.mcs-office.jp> mail:info@mcs-office.jp

相続専用 HP：<http://www.souzokushien110.com/>



えんまん

遺言相続支援センター

多くの人は、成功したら「自分の能力や努力のおかげ」と考え、失敗したときは「運が悪かった」「環境が悪かった」と考えがちだそうです。これは「自己奉仕バイアス」と呼ばれ、自分のプライドや自尊心を保つための無意識の心の防衛機制ともいえます。いわゆる負け惜しみも、人間らしい心のバリアみたいなものですね。

知っどこ! 「税」の マメ知識

今月のマメ知識：【税務署長の処分に不服がある場合には】

税務署長が行った処分に不服がある場合、納税者は不服申立てにより救済を求めることができます。まず処分の通知を受けた日の翌日から3カ月以内に、その処分を行った税務署長に対し再調査の請求が可能です。これ



は課税庁自らが処分の妥当性を再検討する手続であり、その請求の結果、納税者に不利益な変更が発生することはありません。また納税者の選択により、再調査を経ずに直接、国税不服審判所長に対し審査請求を行うことも認められています。再調査の決定後も不服がある場合には、その通知を受けた日の翌日から1カ月以内に審査請求を行うことができます。審査請求では、国税不服審判所の審判官が中立の立場で調査・審理を行い裁決書により判断を示します。さらにその裁決にも不服がある場合は、裁

決を知った日の翌日から6カ月以内に裁判所に訴訟を提起することができます。税務争訟は期限や形式が厳格であり、適切な手続きを踏まなければ却下されることもあるため専門家による支援が重要でしょう。

世界の偉人伝

今月の偉人：【モーツァルト】

ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルトは18世紀の作曲家・演奏家で、古典派音楽の巨匠です。オーストリアのザルツブルクに生まれ、幼い頃から音楽の才能を開花させて5歳で初の作曲をし、ヨーロッパ各地を巡業して神童ぶりを披露しました。作曲の技巧は努力の賜物で交響曲、オペラ、室内楽など作品は多岐に渡ります。収入には恵まれず、35歳の若さでこの世を去りました。「夢を見るから人生は輝く」の信念は、優美で普遍的なメロディで世界中の人々を魅了し続けています。

気軽に Let's 英会話

今月のキーワード：【media】

10月からNHKの業務にインターネットサービス配信が加わります。NHKなどの「マスコミ」は“mass media”で、日本でも「マスメディア」といいますね。英語での発音は「マスミーディア」となります。ネット上で交流できる場を“SNS”といいますが、アメリカでは“social media”で、“This campaign went viral on social media.”は「このキャンペーンはSNSで話題になった」の意味です。“viral”は「ウイルス性の」という意味ですが、ここでは「バズる!」と解釈します。



今月のトピック：【レンタルおばあちゃん】

働くシニアが急増する中、依頼に応じて高齢の女性を派遣する「レンタルおばあちゃん」が好評です。着付けや洋裁などの特殊技能はもちろん、絵本の読み聞かせや家族問題の仲裁、話し相手など、年の功による包容力や安心感が喜ばれています。ぬくもりある存在そのものがお金になる。貯蓄や投資だけではない、老後の蓄えの手段に注目です。



才人の言葉

強い者が勝つのではない
勝った者が強いのだ

「皇帝」と呼ばれたドイツのサッカー選手であるフランツ・ベッケンバウアーの言葉。勝負の世界では結果がすべてだ。油断することなく、全力を出し切って戦おう！

振り向けばあそこにも「商売のヒント」 ここにも

今月の商売のヒント：【余白が生み出す新しい世界観】

効率化や最適化が「良いこと」とされた時代が長く続いたせいで、私たちはあらゆる無駄を削ぎ落とし、最短ルートでゴールを目指すことに慣れすぎてしまったように思います。しかし、常識がどんどん変わっていく中で「無駄のない状態」こそが、新しいアイデアや価値を生み出す最大の障害になっているのでは？と思うことが増えました。ある老舗和菓子屋の社長は、経営効率を上げるために職人の作業時間を1秒単位で短縮しようと試みましたが、一見、すべてが順調に進んでいるように見えたが、次第に職人の表情から活気が失われ、新しい季節商品のアイデアもまったく出なくなったそうです。そこで社長は、あえて「余白」を作ることを決意しました。毎日1時間、職人が自由に過ごせる「休憩時間ではない時間」を設けたのです。最初は戸惑っていた職人たちも、お互いの話をしたり散歩に出かけたりするようになると「川沿いの道端で見つけた珍しい花をモチーフにしたお菓子はどうか？」「子どもの頃の思い出のお菓子を再現してみよう」など、



無駄に思えた時間から新しい商品が次々と生まれ、社員間のコミュニケーションも活発になるという好循環が生まれました。「ポストイット」や「電子レンジ」など、無駄な時間や遊び心から生まれたイノベーションは数多くあります。日々の仕事に追われ、頭が「やるべきこと」でいっぱいになっていると、新しい視点を持つことはなかなか難しいものです。一度立ち止まり、あえて「余白」を生み出してみる。その何もない「余白」から生まれる遊び心や探究心は、会社が成長していく土壌になるかもしれません。

トナりの本棚

【ひとりでしにたい】

文化庁メディア芸術祭のマンガ部門優秀賞を受賞したカレー沢薫の漫画。孤独死や終活という重いテーマをコミカルに描いているため一読したい漫画です。



忙しい朝、服のシワが気になったら、シワの部分霧吹きで少し湿らせてからドライヤーの温風を当ててみましよう。熱と水蒸気力で細かいシワなら簡単に伸ばすことができます。アイロンを出し入れする時間がなく、急いでいるときに便利な裏ワザです。

